

授業科目名	ビジュアルアーツ演習 A Multidisciplinary Arts Seminar A	担当教員名	島屋純晴、小田英之、岩井成昭、高嶺格、 長沢桂一、大谷有花、阿部由布子、 萩原健一
時間割	火、水曜日 4、5 時限	オフィスアワー	各教員による
授業科目区分	専門科目－専門専攻科目－ビジュアルアーツ専攻科目		
履修区分	専攻必修科目	授業形態	演習
配当年次・学期	3 年次前期	単位数	8 単位
前提とする授業科目、密接に関係する授業科目 ビジュアルアーツ演習 B, C 及び卒業制作に関連する。			
授業に関連するキーワード リサーチ、プランニング、プレゼンテーション、ディスカッション、時間と空間			
授業の到達目標及びテーマ： 本演習では、後続の演習 B, C と合わせて今日のさまざまな美術表現を対象とし、絵画、彫刻、テキスタイル、メディアアート等、多様な美術表現の可能性を探求する。特に学習に必要なスキルとして「リサーチ」「プランニング」「プレゼンテーション」「ディスカッション」などの能力を総合的に身につける。また、本演習では、学生が複数の表現領域の特性をそれぞれ知り、異なる表現領域間を自由に横断できる思考力をつけること、そして作品制作の動機となる「時間と空間」の概念をどのように探求していくのかを知ることが目標となる。			
授業の概要： 本演習は構成の柱として以下の二点をあげる。 基礎力と発想力を「時間と空間」という概念の表現に生かす演習をおこなう。例えば「時間」という概念に対して、極端に短い時間と表現構造としては非常に長い時間を思考の中で対比させるべく、それぞれの時間尺を対象にした作品を制作する（個人またはグループ制作）。この制作は学外における作品発表を前提に、任意による複数の手法や素材をそれぞれ複合して表現する。本演習において学生は、予め与えられた主題の表現に専念することになるが、制作の動機と必然性を制作後に「後づける」プロセスを自覚し、固有の制作スタイルを作り出す機会としてとらえる。			
授業計画： 第 1 回～第 4 回 オリエンテーションと「時間と空間」 第 5 回～第 28 回 課題 I a, b 例：「a 極端に短い時間、b 小空間をテーマに制作 ※実際の演習時は具体的に指示」 第 29 回～第 30 回 「課題 I 作品発表及び講評、ディスカッション」する。 第 31 回～第 60 回 課題 II a, b 例：「a 極端に長い時間、b 大空間をテーマに制作 ※実際の演習時は具体的に指示」 第 61 回～第 62 回 「課題 II 作品発表及び講評、ディスカッション」 第 63 回～第 64 回 「時間と空間」というテーマについてのふりかえり。 ※課題で使用するメディア、素材、手法は随時適切に検討・告知する。			
授業時間外の学習内容等 課題作成及び、展覧会等の準備において、授業外の時間を制作にあてることが前提となる。			
評価方法：授業への取組み(40%)、課題作品(60%)で評価する。			
履修上の注意：			
テキスト： 適宜配布する。			
参考書・参考資料等： 適宜指示する。			

授業科目名	美術作品研究 Art Work Study	担当教員名	島屋 純晴 井上 豪 長沢 桂一 大谷 有花
時間割	集中講義	オフィスアワー	
授業科目区分	専門科目－専門専攻科目－ビジュアルアーツ専攻科目		
履修区分	専攻必修科目	授業形態	演習（集中）
配当年次・学期	3年次通年	単位数	2単位
前提とする授業科目、密接に関係する授業科目 ビジュアルアーツ専攻科目全般			
授業に関連するキーワード 美術に関する歴史的立ち位置、時間の関連、過去・現在・未来についての考察と研究			
授業の到達目標及びテーマ 関東地方を中心に4日間の美術作品研究旅行で現代美術作品、並びに歴史的に見て重要な絵画・彫刻・工芸品、寺社・遺跡等の調査研究を行う。絵画・彫刻・工芸・デザインなどの様々な領域の美術作品自体を鑑賞するのみならず、建築、地域の風土、景観、文化的背景との関係でその魅力、意味を考察し、ビジュアルアーツ専攻における作品制作のための重要なヒントを見出すことを目的とする。			
授業の概要 現代美術・現代デザインについてその歴史的背景、現代における役割等について教授する。学生が実際に作品制作を行う時、取り組みや制作姿勢に繋がる要素や可能性についても論ずる。又、日本美術、東洋美術の歴史的意味、歴史上果たしてきた役割、現代における研究成果と今後の問題について学習する。			
授業計画 1：事前説明会を複数回実施する 2：授業実施前に事前レポートの作成提出を行い、研究作品等について予め調査を行うことで研究目的を明確にする 3：夏季休業中の4日間、東京で美術館、博物館研究（2日間）、栃木県日光市での研究（2日間）を行う。 4：研修旅行で調査研究した、内容についてレポートを作成し、提出する。			
授業時間外の学習内容等 授業実施前に事前レポートの作成提出を行い、研究作品等について予め調査を行うことで研究目的を明確にする。			
評価方法 参加態度(10%)および事前事後のレポート(90%)により評価			
履修上の注意 時間の限られた学外実習であるから、事前に調査し各自テーマを決めて参加することが求められる。物見遊山に堕すことのないよう自覚を持って臨むこと。東京では現地集合とします。 旅費、宿泊費の実費負担あり。 各美術館、博物館研究施設等の入館料、東京～日光市のパック旅行（交通・宿泊費）代金は事前に徴収します。			
テキスト 適宜紹介する。			
参考書・参考資料等 適宜紹介する。			

授業科目名	ビジュアルアート演習 B Multidisciplinary Arts Seminar B	担当教員名	島屋純晴、小田英之、岩井成昭、高嶺格、 長沢桂一、大谷有花、阿部由布子、 萩原健一
時間割	火、水曜日 4、5 時限	オフィスアワー	各教員による
授業科目区分	専門科目－専門専攻科目－ビジュアルアート専攻科目		
履修区分	専攻必修科目	授業形態	演習
配当年次・学期	3 年次後期	単位数	8 単位
前提とする授業科目、密接に関係する授業科目 ビジュアルアート演習 A, C 及び卒業制作に関連する。			
授業に関連するキーワード 発想力、リファレンス、創造的リメイク、展示計画、キュレーション、			
授業の到達目標及びテーマ： 本演習は演習 A から引き続き、多種にわたる美術表現の領域を解体、再構成しながら既存の領域枠を超えた美術の可能性を探求する。複数の課題発表はそれぞれが公開を前提とした展覧会形式をとり、展示空間などの条件に合わせた設営計画、施工、広報等の基礎も取得する。また、今後個人で進める作品制作の根幹を成すテーマの発想法や動機付け、そして導き出したテーマに相応しいメディアや手法をいかに選択していくかを知ることが大切である。			
授業の概要： この授業は、期間中 3 つの課題（1～3）とそれぞれに付随する講義やワークショップ、そして課題作品を発表する場としての展覧会から構成される。 課題 1：演習 A で習得した基礎力と発想力を自身の関心から導かれた主題として自由に展開・試行する。また、素材・メディアや制作手法の実験を前提として作品を制作、大学内外の空間において展覧会を開催する。 課題 2：独自の主題発見と手法の研究を目的として、自身が既存の先行美術作品を十分にリファレンスし、その調査を踏まえて創造的なリメイク作品を制作する。作品は、大学内外の施設における展覧会で発表される。 課題 3：キュレーターとしての役割を持つ学生を中心にグループに分かれ、グループごとに独立したテーマと展示計画を基に、メンバーそれぞれが作品を制作（或いは調達）し、大学内外の空間において展覧会を開催する。			
授業計画： 第 1 回～第 20 回 課題 1「自由な試行・展開」制作期間 第 21 回～第 25 回 課題 1 展示及び講評 第 26 回～第 28 回 課題 2「リファレンスと創造的リメイク」のためのレクチャー 第 29 回～第 40 回 課題 2 作品制作 第 41 回～第 45 回 課題 2 展示及び講評 第 46 回～第 48 回 課題 3「キュレーションの介在する展覧会」のためのレクチャー 第 49 回～第 60 回 課題 3 作品と展覧会制作 第 61 回～第 64 回 課題 3 展示及び講評			
授業時間外の学習内容等 課題作成及び、展覧会等の準備において、授業外の時間も制作にあてることが前提となる。			
評価方法： 授業への取組み(40%)、課題作品(60%)で評価する。			
履修上の注意：			
テキスト： 適宜配布する。			
参考書・参考資料等： 適宜指示する。			

授業科目名	ビジュアルアート演習 C Multidisciplinary Arts Seminar C	担当教員名	島屋純晴、小田英之、岩井成昭、高嶺格、 長沢桂一、大谷有花、阿部由布子、 萩原健一
時間割	火曜日 3、4、5 時限 水曜日 4、5 時限	オフィスアワー	各教員による
授業科目区分	専門科目－専門専攻科目－ビジュアルアート専攻科目		
履修区分	専攻必修科目	授業形態	演習
配当年次・学期	4 年次前期	単位数	6 単位
前提とする授業科目、密接に関係する授業科目 ビジュアルアート演習 A, B 及び卒業制作に関連する。			
授業に関連するキーワード 表現の根拠			
授業の到達目標及びテーマ： 先の演習 A, B では、主題の探求とその作品化について、美術史やさまざまなアートフィールドへのリファレンスや、複数の表現領域を横断・解体しながら学んできた。本演習では、卒業制作に結実することを前提に、学生が社会や自身から導かれた現代の主題を「表現の根拠」と位置づけ、それらを主体的に考案できる知的体力を習得する。また、社会的な事象と、美術作品が成立するメカニズムそれぞれの関係性を、学外における調査や地域との交流、ゲスト講師とのディスカッションなど、さまざまな実体験の中で知る。			
授業の概要： 学生は、社会的であると同時に、現代美術の流れの中に自分自身の位置を確認しながら「表現の根拠」の考案・開発を行う。活動は各自の裁量に任せて実践されるが、卒業制作を視野におき、概ね以下のようなプロセスをとる。 ① テーマにつながる自身の関心を多角的にリサーチする ② 素材の研究、表現手法・技術の展開と実験 ③ 作品制作 ④ 展覧会構成・展示計画 ⑤ 展示のフィードバックを分析し、卒業制作へ活かす 上記のような学生の自主的かつ個別の活動と平行して、卒業制作へ向けた学生グループを編成し、各グループに担当の教員を配す。そして教員は定期的にミーティングを催し、進捗状況の共有や個別の問題に対応する。			
授業計画： 第 1 回～第 21 回 テーマの調査と実験 第 22 回～24 回 中間報告会 第 25 回～第 42 回 作品制作と展示計画 第 43 回～第 45 回 展示及び講評			
授業時間外の学習内容等 課題作成及び、展覧会等の準備において、授業外の時間も制作にあてることが前提となる。			
評価方法： 授業への取組み(40%)、課題作品(60%)で評価する。			
履修上の注意：			
テキスト： 適宜配布する。			
参考書・参考資料等： 適宜指示する。			